



ともに学ぶ



第6号～2学期スタート！習慣を定着させ、意欲アップの名コーチに。～ R5夏休み号 姿川二小 学習指導部

いよいよ2学期のスタートです。通知票の成績や「学習と生活の様子」から、「2学期は気持ちを切り替え、〇〇ができるように、がんばろう！」と思っているお子さんや、「2学期はしっかり学習させないと！」とお子さんの学習をより一層気に掛けようとしている御家庭も多いのではないのでしょうか。

しかし、まだまだ気分に変化がある小学生の子どもに、どのような声掛けをし、どのように宿題や家庭学習に取り組みせたらよいのでしょうか。新たな気持ちで2学期の家庭学習に取り組めるよう、一緒に考えてみましょう。

1 生活・学習習慣を再確認してみましょう。

以下は、1学期「ともに学ぶ」でお伝えしてきた生活と学習習慣についての内容です。各御家庭で生活や学習習慣がどのくらい整ってきているか、再確認してみましょう。

- ☐ 毎日同じ時間に起きて、寝て、食事をしている。
- ☐ 毎日同じ時間、同じ場所で学習をしている。
- ☐ まず、宿題に取り組む習慣が身に付いている。
- ☐ テレビを消し、おもちゃを片付けるなど、集中できる学習環境を整えている。
- ☐ 学習用具チェック表をもとに、毎日きちんと学習用具（削った鉛筆5本、四角い消しゴムなど）を整えている。
- ☐ お子さんが取り組んだ宿題や学習を、親の目で確認している。



〇が 5・6個…生活・学習習慣が身に付いています!! **親御さんが名コーチ!!**

〇が 3・4個…おおよそ一定の習慣が身に付いています。 **親御さんがよき伴走者!**

〇が 2個以下…親子で同じ時間を過ごすことと、「子どもが主役（選手）。親はサポーター（コーチ）」という意識で、お子さんの体調管理と共に、生活・学習面でもぜひサポートを。

2 必ず宿題に取り組む習慣&親の目で確認する習慣を。

全学年、毎日家庭で取り組む課題（宿題）が出されています。ではなぜ、宿題が出されるのでしょうか。

① 家庭で学習するリズムを作るため

「まず宿題」…。この合言葉で、**家庭で学習するリズムを作ることができます**。毎日音読や漢字練習などの課題に取り組むことで、自然と生活・学習のルーティンが定まってきます。

宿題にきちんと取り組む習慣が身に付くまでは、お子さんの隣に座り、勉強に付き添うようにしましょう。

② 自分から進んで学習に取り組む姿勢を育てるため

生活・学習リズムが一定になれば、自然と「まず宿題」とお子さんの意識も変わってきます。毎日同じ時間、同じ場所で集中できる環境で学習することが、歯磨きと同じように当たり前のことになり、**自然に「自分から学習に取り組む姿勢」が育ってきます**。

時には、集中が継続しなくなったり、リズムが時々崩れたりすること、ありますね。そんなときお子さんにとって、**保護者の方の励ましは何よりの栄養補給**になります。「自分から取り組めて、えらいね。」「毎日、がんばっているね。」など、自分から学習に取り組めた姿勢を意識的に褒めましょう。

③ 面倒なことをがんばってやり遂げる力を育てるため

家に帰ったら、「ほっとしたい。ゆっくりリラックスしたい。」と思うのは大人も子供も同じです。「疲れたね。宿題が終わったら一息つこう。」と、**お子さんの疲れた心を癒す言葉と工夫**をお願いします。

④ 授業で習ったことを定着し、活用させる力を育てるため

学校での1授業は、45分間で行います。その45分間では、「前時の復習」、「本時のめあて」、「個人で考える時間」、「ペアやグループで話し合う時間」、「全体で学びを共有する時間」、「練習問題」、「まとめと振り返り」というように、思考を伴いながら、どの子も本時の目標が達成できるよう、授業が行われています。授業中「分かった!」と思ったとしても、次の日には忘れてしまうこともあります。

家庭でもう一度考えたり、授業で習ったことを生活の中で活用したりすることで、「こういう意味だったのか!」と実感することができるようになるのが、宿題なのです。

⑤ 保護者が、名コーチとなり、選手（子ども）を育てるため

誰しも学習した内容がすぐには身に付かないことは当たり前です。名スポーツ選手でも、スランプに陥ることもあります。そのような学習に行き詰ったとき、**お子さんのすぐそばで苦手なところをフォローしたり、手助けしたり、励ましの言葉を掛けたりできる、名コーチ(保護者の方)の出番です。**

お子さんがすぐ質問できるよう、隣で見たり、リビングで見守ったりするようにしましょう。**すぐ解決できれば、学習意欲が下がらず、最後まで取り組むことができます。**

そのためには、今日の宿題は何か、**連絡帳を親の目で確認することも大切です。**

「宿題は、やったの?」「やったよ。」の会話で終わりにせず、**学習したノートやプリントには、必ず目を通し、**できているところや丁寧に取り組んでいるところを認め褒めることが、家庭学習を継続させるポイントです。もしも間違えているところや乱れた字があったら、できたところは認めつつ、その場で直すようにしましょう。

3 意欲アップの言葉で名コーチ!

「折角間違いを指摘してあげたのに、泣いたり、怒ったりします…。」

そんなこと、ありませんか?

小学生のうちは、間違いをストレートに指摘されると、プライドが傷つき、一番甘えられるお家の人の話を素直に聞けないこともあります。そんなときは、



- | | |
|------------------------|------------------------|
| ○ 「どうやって考えたのか教えて。」 | …お子さんに教えてもらうような問いかけを。 |
| ○ 「うっかりすることもあるよね。」 | …間違いはいけないことではないと伝えましょう |
| ○ 「分からないところが分かってラッキー!」 | …また賢くなれたと、プラス思考の声掛けを。 |
| ○ 「やった分だけ、できるようになるね。」 | …努力やがんばりを認め、褒めましょう。 |

間違いを非難したり、お子さん自身を否定したりせず、「ここまでは、自分の力でできた。」と、**頑張った過程を認め、プラスの言葉を掛けて褒めることで、お子さんに自信が育まれ、最後まで根気強く学習する姿勢が育ちます。**他にも、

「宿題は、大丈夫?」・「宿題が終わったら、お楽しみね♪」・「一人でできたの?すごいね。」
「明日の準備、かんペき?」・「さすが、わが子!」・「疲れちゃうときもあるよね。」
「上手だったから、もう1回読んで聞かせて。」・「ここ!とっても丁寧な字!」
「がんばったね!好きなおかず、少し多めね。」・「上出来!上出来!」
「(わたしも)お皿片付けちゃうから、一緒にがんばっちゃおう!」 など



時には、限られた時間の中でなかなか進まないお子さんに注意が多くなってしまうこともあるでしょう。それは、お子さんのことが心配な愛情の裏返しの表現でもあります。

そんなイライラしたときは、目をつぶって心の中で5~10数え、気持ちを落ち着かせましょう。

赤ちゃんだった頃を思い出すこともいいですね。小学生のお子さんを目の前にして、「**小さな体でがんばっているな。」「小さい頃よりできることが増えたな。」**と、思えるでしょう。そうすることで、お子さんの意欲がアップするような、プラスの言葉掛けが自然と意識できるでしょう。

お子さんが将来、自分の将来や人生を考え、しっかり選択することができるよう、2学期も家庭と学校で連携していきましょう。